

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
68	川崎市立野川小学校	伊藤 肇

学校教育目標	今年度の重点目標	
<p>かしこく やさしく たくましく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲と好奇心をもって学習に臨む子、生きる知恵をもった子 ・自分、他人、集団を大切にすることを心もった子 ・心身ともに健康な子 	<ul style="list-style-type: none"> ○身につけさせたい資質・能力を育む ○元気な体と豊かな心を育む ○安心・安全な学校を育む ○地域に開かれた特色ある学校を育む 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育力を高め、身につけさせたい資質・能力の育成を図る ・ふれあいを大切に認め合う心の育成を図る ・安心・安全を守り、心身の健やかな育成を図る ・連携を深め、学校愛・地域愛の育成を図る

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・教育力を高め、身につけさせたい資質・能力の育成を図る 	<p>①基礎・基本のさらなる定着と主体的に学ぶ意欲の育成○学習指導要領の趣旨を大切にした主体的・対話的で深い学びの推進</p> <p>②資質・能力育成に向けた教育内容の効果的な編成○カリキュラム・マネジメントによる学習指導計画の策定○指導体制や諸条件の整備と活用</p> <p>③体力の向上○体育授業の充実とキラキラ活動の推進</p> <p>④指導力・授業力の向上○校内研究を中心とした実践研究○学び合いによる授業づくり○GIGAスクール構想実現に向けた研修と計画作成○校外研修への積極的な参加</p>	<p>○本校では、ここ数年「学び合い」というキーワードで学習を進めている。自力思考→集団思考→振り返りという流れで1時間を終える。一人だけでは解決できない課題も友達との考えから、「自分と同じような考えで安心した」「違う考えがあることがわかり、次に活かしてみよう」など誰一人取り残さない指導を心がけてきた。これらの学習を成立させるには、認め合う関係がないと難しいので、児童理解と両軸で行っていく必要がある。</p> <p>○教科書通りの進め方では、理解の度合いによっては時数がたりなくなる恐れもあるので、教科横断的な取り組みや生活・総合との合科学習も今後は取り組んでいきたい。</p> <p>○今年度は、国語科を中心に関内研究を進めてきた。昨年度作成した話す・聞くのステップアップ表を学年に応じて手立てを講じながら、実践することで積み重ねができた。今後も継続して取り組んでいきたい。</p>	<p>○主体的・対話的で深い学びの実現により、子どもたちが自ら学ぶ楽しさを見につけ、みんなで課題を解決していく道筋を単元を通して、取り組んでいくことが大切である。また、多様性の時代にあって個に応じた指導と協働的な学びは本校が取り組んできた「学び合い」に大きくつながっていると思うので、今後も継続して取り組んでいきたい。</p> <p>○GIGA端末を使った学習を教科の特性を活かしながら、系統的に行っていく必要がある。学年の職員と連携をとりながら、子どもたちが自然に利用できるGIGA端末であるよう、持ち帰りも含めて組織的に取り組みたい。</p> <p>○地区別運動会のあり方が見直され、全校で取り組むキラキラチャレンジを通して、体力の向上と生涯学習の気持ちを作っていきたい。</p> <p>○生活・総合を各教科との横断的な学習になるよう、カリキュラムマネジメントを各学年で行い、実の場を通じた学習課程を構築していきたい。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいを大切に認め合う心の育成を図る 	<p>①認め合う学習習慣・生活習慣の育成○聴き合う関係を大切にした学年学級経営の推進○読書活動や読み聞かせの推進</p> <p>②ふれあい活動の推進○野川のつどい、ひだまりハーモニー、集会活動など、内容を精選した異学年交流によるふれあい活動の推進○豊かな感性を育む情操教育</p> <p>③特別活動等を通じた児童の主体的な取り組みの奨励と支援○学年段階に応じた行事や特別活動への児童の参画○個のよさを生かせる支援○あいさつ運動の継続</p> <p>④自分づくり友だちづくりと社会性の向上○「子どもの権利条例」の趣旨を生かした人権尊重教育○共生共有プログラムを年間計画に基づき全学級で年間実施</p>	<p>○この柱は、コロナ禍では一番制限があったところである。しかし、学校の役割を考えたときにこの柱こそ、学校でなければできない事柄が多い。今年度は150周年記念事業に取り組んだ。これまでできなかった学年や学校単位での取り組みは、子どもたちの一体感と思いの実現、アウトプットによる再学習など、子どもたち一人一人が伝統や歴史に触れ、これまでも地域の方々から子どもたちを温かく見守ってくれたことを知ることができた。</p> <p>○自分の学校の歴史を知って、次年度川崎市制100周年に向けて、キャリア在り方生き方教育を進めていきたい。</p> <p>○効果測定や共生共有プログラムを年間を通して計画を行うことで、学級経営の一助とすることができた。</p>	<p>○互いを認め合う、温かな聴き手を育て、様々な交流を通して、人と人とのつながりを大事にしていきたい。</p> <p>○特別活動等を通して、児童の主体性を育み、150周年事業で培ったアウトプットの大切さを実感させるとともに、自己肯定感を高めていきたい。</p> <p>○市制100周年を通して、キャリア在り方生き方教育の実践を積み重ねていく。</p> <p>○学校司書が配置されて、毎年2回総括司書、学校司書、図書ボランティア、学校図書担当者と会議をもち、子どもたちの読書環境について意見交換をし、活動に活かしてきたので、今後も継続していきたい。</p>

3	<p>・安心・安全を守り、心身の健やかな育成を図る</p>	<p>①支援体制の確立と推進○支援教育コーディネーターを中心に組織的な対応を心がけた全職員による支援教育の推進○サポーターやボランティアの確保と運用○教育相談、ケース会議の充実 ②児童指導体制の充実○野川スタンダードの共通理解○報告連絡相談などの組織的で共通認識をもった対応 ③いじめを許さない体制づくり○いじめの早期発見と早期対応○いじめ防止基本方針の策定 ④防災防犯体制の確認と教育の推進○児童の安全を最優先した非常時の準備と訓練の実施○安全安心に向けた保護者、地域近隣校との連携強化○情報モラルや防犯教育の推進</p>	<p>○支援教育コーディネーターを中心に不登校支援や別室指導等を行うことで、教室以外でも学びが保障され、エネルギーをためることができた児童もいた。コロナから不安を訴える児童も増え、様々な課題に取り組んでいるので、支援教育コーディネーターも別室から離れられない状況もうまれ、本来行うべき各教室に入っただけの見取りがなかなかできないのが現状である。また取り出し支援も行いたい、ニーズが多すぎると週に1度程度しか時間が取れないときもある。 ○日常生活アンケートや効果測定によって、未然にいじめに関する事柄を探知しながら、取り組むことができた。 ○毎年出前授業の実施はしているものの、高学年になると、LINEをめぐるトラブルが起こっている。ほとんど、放課後の出来事だが対応せざるをえず、先生方の負担が大きいと感じる。</p>	<p>○多様性の時代に即して、先生主導の画一的な指導から個に応じた支援を心がけ、不安を抱えている児童には、別室指導でエネルギーを蓄えさせながら、学校生活を楽しいものにしていきたい。そのためには、支援教育コーディネーターが別室にかかりきりになると、本来の役割である通常の学級にいる児童の見取りができないので、工夫して行う必要がある。 ○効果測定と学校生活アンケートを年間を通して、計画的に行い、学校側から課題が見つかるように探ってきた。高学年になると、SNSをめぐるトラブルが毎年のように起こっている、出前授業は続け、保護者の方々にも啓蒙していく必要がある。</p>
4	<p>・連携を深め、学校愛・地域愛の育成を図る</p>	<p>①連携教育の推進○幼稚園保育園との交流推進○野川中との小中の学びの連携の強化 ②保護者や地域の教育力の活用○保護者との連携強化と教育ボランティアの活用○地域学習材や地域協力者を積極的に学習に取り入れた地域の理解と交流の推進 ③開かれた学校づくりの推進○学校評価をもとにマネジメントを計画的に進め、全職員による共通理解と保護者、地域への報告○学校教育推進会議等の充実○学校からの幅広い情報発信</p>	<p>○アフターコロナになり、校種を越えた交流ももどに戻りつつある。幼保との交流や中学校体験等、可能なかぎり取り組んでいきたい。 ○150周年事業を通して、地域の歴史や人々に触れることができた。このつながりを大切にして、野川小らしいカリキュラム作成ができるとういと考えている。 ○次年度から学校運営協議会制度に移行させ、より保護者・地域の方々との本校の児童の育成に尽力したい。 ○学校評価を紙ベースからメールでの回答に切り替えてきたところ、回答率がぐんと上がってきた。保護者もDX化の動きを理解しているものの自由記述が少なくなってしまったのは、再度分析をしたい。</p>	<p>○野川小らしいカリキュラム作りを意識した教育課程の作成に取り組んでいきたい。150周年事業でつながった地域の方々とのパイプをより太いものにできたらと考えている。また、伝統のある学校という場が古くから地域のコミュニティーの場となっていたことは、社会福祉協議会の催しを見ても明らかであるが、週休日に開催され、本校児童の参加も少ないので、学校行事とタイアップして開催できないか模索してみたいとも考えている。働き方改革の中で、地域行事の見直しにもなると思う。 ○保護者による学校アンケートもICTの活用により、回収率や集計の面などで改善が図れた。今後はその質問内容の検討や分析も学校運営に活かしていきたい。</p>
<p>学校関係者の評価</p>		<p>学校運営のまとめ</p>		
<p>○代表委員会児童による学校における取組を学校教育推進会議で報告したところ、児童が学校のよいところを引継ぎ、今後もよき伝統を守っていききたいと思っいることが伝わった。また、学校評価の分析については、回収率が上がって見えてきたことや経年で見えることなどがあると、わかりやすいというご意見もいただいた。</p>		<p>○今年度の150周年事業に向けて、数年前から準備をしてきたことが実を結び、アフターコロナで地域の方を含めて大変多くの皆さんに子どもたちの姿をお見せすることができたことは、励みにもなり、たくさんのお褒めの声も児童をより表現したい気持ちにさせた。今後はこれらの取り組みを市制100周年にもつなげ、キャリア在り方生き方教育を通して、3つの視点を見据え、児童の資質能力を育んでいきたい。 ○年度当初から事情でお休みに入った教職員に対して、代替者が配置されずに1年が終わろうとしている。猫の手も借りたいほどの学校現場で、業務負担になることは間違いなく、働き方改革に逆行して</p>		